

ふじた つくはる くによし やすお

特別展「藤田嗣治×国吉康雄： 二人の平行・キャリアー百年目の再会」開催

The Parallel Careers of Foujita and Yasuo Kuniyoshi: A Centennial Reunion

2025年6月14日（土）～8月17日（日）/兵庫県立美術館

兵庫県立美術館は、20世紀前半の海外で成功と挫折を経験した二人の画家、藤田嗣治（1886-1968）と国吉康雄（1889-1953）が、ともにフランス・パリに滞在した1925年から100年目になることを機にした特別展「藤田嗣治×国吉康雄：二人の平行・キャリアー百年目の再会」を、**2025年6月14日（土）～8月17日（日）の会期で開催**いたします。**巡回なし、兵庫県立美術館のみの展覧会**です。

藤田嗣治は、東京美術学校卒業後26歳で単身フランスに渡り、1920年代「素晴らしき乳白色の下地」と称賛された独自の画風によって、エコール・ド・パリの寵児としてフランスでの名声を確立します。国吉康雄は16歳で渡米、画才を認められて研鑽を積み、アメリカ具象絵画を代表する画家としての地位を築きました。パリとニューヨークで活躍した二人の画家は、1925年と28年のパリ、1930年のニューヨークで接点を持ちますが、太平洋戦争によりその関係性が破綻します。終戦後、1949年の10カ月を藤田はニューヨークで過ごしますが、現地にいた国吉との再会は叶いませんでした。日本とフランス、日本とアメリカ、二つの祖国を持った二人が、それぞれどのような自覚と視座のもと作品を生み出していったのか、通時的かつ共時的に作品を対比させてご紹介します。

概要は次ページのとおりです。



藤田嗣治《自画像》1929年 油彩・カンヴァス
61.0×50.2cm 東京国立近代美術館

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975



国吉康雄《制作中》1943年 カゼイン・石膏パネル
48.6×35.6cm 福武コレクション

《報道関係者お問い合わせ先》

「藤田嗣治×国吉康雄」PR事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場）090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：fk2025@tm-office.co.jp

— みどころ —

1. 藤田嗣治、国吉康雄の本格的な二人展は、国内外の美術館で初めての試み

2. 同時代を生きた二人の巨匠。9章立てで作品が対面し、共鳴する

藤田はフランス、国吉はアメリカで日本人「移住者」の画家として歩み始め、1925年と28年のパリ、1930年と49年のニューヨークで接点を持ちながら、平行した人生を送りました。本展では、母国への一時帰国や日米開戦下の制作、さらに、戦後の藤田のフランス永住と国吉の死までを扱う全9章によって二人の作品を対比させながら、時系列に紹介します。

3. 藤田嗣治と国吉康雄の代表作が神戸に集結！

1975年に兵庫県立美術館の前身である兵庫県立近代美術館で別々に個展を開催して以来、二人の作品をまとめて紹介するのは神戸では50年ぶりとなります。国内主要コレクションから代表作が一堂に会する本展は、それぞれの個展としてもお楽しみいただける、充実した内容となっています。

4. 藤田の1920年代の大作2点が、本格的な修復後、初めて同じ会場で出品

- ・《五人の裸婦》（1923年、東京国立近代美術館蔵）
- ・《舞踏会の前》（1925年、公益財団法人大原芸術財団 大原美術館）

5. 巡回なし！兵庫県立美術館のみの開催

6. 戦後80年にあたる2025年、戦争に翻弄された二人の軌跡を辿る

当時、まだ日本で知名度の低かった国吉を日本画壇へ紹介するため、藤田は1931年に画家の有島生馬（1882-1974）に手紙を送っています。しかしその後、日米が開戦すると、日本で「作戦記録画」を担った藤田と、アメリカで民主主義を信じて制作を続けた国吉は、それぞれ全く異なる道を進みます。1949年に藤田はニューヨークに1年弱滞在しますが、二人が再会することはありませんでした。

— 略歴 —

貸出画像①



藤田嗣治（ふじた つぐはる）1886-1968

1886年東京府生まれ。画家を志し、1905年東京美術学校西洋画科に入学。1913年に単身渡仏。1919年のサロン・ドートンヌで全点が入選を果たし、会員に選出される。1921年に発表した裸婦像の「素晴らしき乳白色の下地」が称賛を集める。以後、エコール・ド・パリの寵児として知られる。1929年に日本に一時帰国後、中南米滞在を経て1933年から再び日本で暮らした。翌年に二科会員となり、中南米や日本の風土を題材とした絵画や壁画を手がけた。1939年に再渡仏するが、第二次世界大戦の戦況悪化のため翌1940年に帰国し、戦時中には「作戦記録画」を制作した。戦後、1949年に渡米、翌年フランスに帰還し、永住を決意する。1955年にフランス国籍を取得。1959年にはカトリックの洗礼を受け、1968年に死去。

中山岩太 《ポートレート（藤田嗣治）》

1926-27年 中山岩太の会蔵

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975

国吉康雄（くによし やすお）1889-1953

貸出画像②

1889年岡山市生まれ。1906年に労働移民として単身渡米。学校の教師に勤められ美術の道に進む。1916年からニューヨークのアート・スチューデントズ・リーグで学んだことが転機となり、初期作は東洋的画題と西洋的技法の融合した独自の表現として評価を受けた。友人で画家のパスキンの勧めで1925年と28年に2度渡仏。「ユニバーサル・ウーマン」と呼ばれる女性像を描き人気を博す。1931年に日本に一時帰国し、個展を開催。同年に二科会員となり、翌1932年に二科会へ出品。1941年の太平洋戦争勃発後、日米間の対立に苦悩する心中が投影された作品を描いた。1948年にホイットニー美術館で現存作家初の個展を開催し、1952年にヴェネツィア・ビエンナーレアメリカ代表に選出。アメリカ市民権を申請中の1953年に死去。



Max Yavno 《「逆さのテーブルとマスク」を制作中の国吉康雄》
1940年頃 福武コレクション

第1章

1910年代後半から20年代初頭： 日本人「移住者」としてのはじまり

1906年、16歳で労働移民として渡米した国吉は、教師の勧めで画家を志し、ニューヨークのアート・スチューデント・リーグで研鑽を積みます。東京美術学校卒業後の藤田は1913年、26歳で渡仏。第一次大戦下も欧州にとどまり、戦後、パリの諸サロンで入選を重ねます。



藤田嗣治 《二人の少女》 1918年
油彩・カンヴァス 65.0×54.0cm 軽井沢安東美術館
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975

貸出画像③



国吉康雄 《夢》 1922年 油彩・カンヴァス 51.5×76.7cm
石橋財団アーティゾン美術館

アメリカで美術を学んだ国吉は、フォーク・アートに見られる鳥瞰図的技法を取り入れた。モチーフとしてよく描いた牛や子供の姿をデフォルメし、空間に奥行きを持たせた作品は、西洋と東洋の融合した表現として評価された。

第2章

1922年から24年：異国での成功

乳白色の下地による裸婦のスタイルを確立した藤田は、20年代前半のパリの諸サロンに代表作《五人の裸婦》などを発表します。ニューヨークの国吉は1922年からダニエル画廊で毎年個展を開き、複数の展覧会に参加を続け、東洋的と評された作風で注目を集めました。

貸出画像④



藤田嗣治 《タビスリーの裸婦》 1923年
油彩・カンヴァス 126.0×96.0cm 京都国立近代美術館
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975

藤田は1920年代初頭に東西の絵画技法を融合し、「乳白色の下地」に描いた女性像で注目を集めた。本作は、フランス更紗と呼ばれる装飾的な手染めの布と白い肌の対比によって、両者の繊細な美しさが際立つ。1923年サロン・デ・テュイルリー出品作。

貸出画像⑤



国吉康雄 《幸福の島》 1924年 油彩・カンヴァス 60.9×76.2cm 東京都現代美術館

国吉の初期の女性像の特徴をよく示す代表作である。デフォルメされた表現は官能的というよりも笑いを誘うこともあったが、子宮内の胎児を思わせる構図と女性の表情、腹部から芽吹く枝や貝殻などを組み合わせることで、独自の官能表現を生み出した。

第3章

1925年と1928年：藤田のパリ絶頂期と国吉の渡欧

今から100年前の1925年、パリではアール・デコ博覧会が開かれ、日本からも多くの視察がありました。国吉は1925年と28年に当時の妻で画家のキャサリン・シュミットとパリに滞在します。ブルガリア出身で、NYとパリを往来するジュール・パスキンは藤田、国吉の共通の親しい友人でした。

貸出画像⑥



藤田嗣治 《舞踏会の前》 1925年 油彩・カンヴァス
168.5×199.5cm 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975

舞踏会の出番を待つ女性たちの足元には様々な仮面が散在している。中央が1923年に出会い、のちに妻となるユキ、小柄な着衣の女性はロシア人の造形作家、マリー・ヴァシリエフである。1925年サロン・デ・テュイルリー、1929年の日本初個展の出品作でもある。



国吉康雄 《化粧》 1927年 油彩・カンヴァス
92.0×76.5cm 福武コレクション

第4章

1929/1930/1931年： ニューヨークでの交流とそれぞれの日本帰国

藤田は1929年に初めて母国に一時帰国を果たしました。いったんパリに戻り、1930年秋、ニューヨークでの個展のために藤田は渡米します。ここでふたりは直接交流する機会を得ました。その後、藤田からの紹介状を手に、1931年、国吉は24年ぶりに母国に向かいます。

貸出画像⑦



藤田嗣治 《自画像》
1929年 油彩・カンヴァス
61.0×50.2cm
東京国立近代美術館
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris
& JASPAR, Tokyo, 2025 E5975

おかっぱ頭に丸眼鏡、ピアスにちょび髭。現代でも通じる、藤田と云えばこれという、定番の姿を描く。背景の女性像と面相筆や机上の硯は、賞賛された「素晴らしき乳白色の下地」とそれを生み出した画家の技術を示す。

貸出画像⑧



国吉康雄 《サーカスの女玉乗り》
1930年 油彩・カンヴァス
165.1×101.6cm 個人蔵

渡仏をきっかけに、国吉はサーカスの女性を多く描き始めるが、本作も2度目のパリ滞在後に描かれたもの。それまでのデフォルメされた表現から一線を画す質量感ある肉体には、モデルを前にして描くことを国吉に教えた、パスキンの影響がくみ取れる。

第5章

1930年代：軍国主義化する母国の内外で

30年代初頭にパリを離れ、中南米経由で33年秋に母国に戻って定住した藤田はフランス、日本・アジアの風俗など新たな画題に取り組みました。国吉は順調な制作を続け、受賞を重ねました。母校で教職につき、さらに芸術家権利向上・団結を目指す活動にも力を注ぎます。

貸出画像⑨



藤田嗣治 《猫のいる静物》
1939-40年 油彩・カンヴァス
80.6×99.9cm
石橋財団アーティゾン美術館
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975

1939年に日本から再び渡仏した際に手がけた静物画には、猫とシジュウカラが描かれている。フランス語の「静物画」は「死んだ自然 (la nature morte)」と呼ばれるが、生と死、静と動が対比されている。1940年第27回二科展への出品作。

貸出画像⑩



国吉康雄 《逆さのテーブルとマスク》
1940年 油彩・カンヴァス
153.0×89.5cm 福武コレクション

足の欠けた逆さまのテーブルの上に、仮面、定規や花瓶が不均衡なバランスを保っている。新聞には第二次世界大戦についてのニュースが報じられているのかもしれない。静物画の題材に独自の意味を持たせた国吉の代表作であり、ニューヨーク近代美術館旧蔵。

第6章

1941年から45年：日米開戦下の、運命の二人

1941年12月8日の日米開戦が、親しかった在外邦人画家の運命を別（わか）ちます。藤田は母国で、軍部からの作戦記録画の注文に力を注ぎます。国吉のアメリカでの立場は敵性外国人となり、行動制限を受けるなか、軍国主義を批判する活動や制作に取り組みました。

貸出画像⑪



藤田嗣治 《ソロモン海域に於ける米兵の末路》
1943年 油彩・カンヴァス 193.0×258.5cm
東京国立近代美術館（アメリカ合衆国より無期限貸与）
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975

米兵を乗せた小舟が大海原を漂流する場面は、西欧の伝統的な歴史画を参照したとされる。サメの姿に彼らの絶望的な行く末が暗示されるが、一人は絶望することなく力強く立つ。第2回大東亜戦争美術展出品。海軍作戦記録画。

貸出画像⑫



国吉康雄 《誰かが私のポスターを破った》
1943年 油彩・カンヴァス
117.0×66.5cm 個人蔵

画家ベン・シャーンによる労働者のポスターが破られ、その前に立つ女性性は戦時下の国吉の心境を投影しているかのようである。モデルを前にデッサンした後、さらに長い時間をかけて制作することで、国吉の言う「ユニバーサル・ウーマン（普遍的な女性像）」となっている。

第7章

1946年から48年：戦後の再生と異夢

戦後、藤田は「戦争責任」をささやかれるなか、裸婦や幻想的な情景の制作を再開しつつ、フランス帰還の可能性を模索します。国吉は制作と美術家組合の活動に邁進。1948年ホイットニー美術館で個展の開催を迎えます。同館では初の現存作家の個展という栄誉でした。



藤田嗣治 《私の夢》 1947年
油彩・カンヴァス 65.5×100.0cm
新潟県立近代美術館・万代島美術館
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975



国吉康雄 《祭りは終わった》 1947年
油彩・カンヴァス 100.0×176.0cm 岡山県立美術館

逆さまとなり役目を終えた木馬は、「祭りの終焉」を表す。さらに、戦後すぐ完成された本作について国吉は、「祭りは終わった。戦争も終わった。新しい世界を待ち望んだけど、何もやっては来なかった。」と語った。

第8章

1949年ニューヨーク：すれ違う二人

藤田は1949年3月、離日・渡米を果たし、ニューヨークに約10か月滞在。現地では恵まれた画材や美術館の西欧名画と再会し、11月にはマシアス・コモール画廊で個展を実現します。国吉は藤田不在の個展会場に足を運びましたが、この間、二人の再会はありません。

貸出画像⑬



藤田嗣治 《美しいスペイン女》 1949年
油彩・カンヴァス 76.0×63.5cm 豊田市美術館
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975

貸出画像⑭



国吉康雄 《カーニバル》 1949年
油彩・カンヴァス 100.0×59.5cm 個人蔵

藤田は1949年に新天地ニューヨークで制作に没頭した。ここで題材とされたのは、ヨーロッパの歴史的な街並みであり、黒い衣装によって白い肌の美しさの際立つ「スペイン女」である。11月の個展で発表された作品のひとつ。

1950年から53年：藤田のフランス永住と国吉の死

1950年秋に体調を崩した国吉は、移民法改定を受けアメリカ国籍取得の手続き途上の1953年5月に亡くなりました。1950年初めにパリに帰還し、55年にフランス国籍を取得して日本国籍を手放した藤田は、晩年カトリックに改宗。1968年に没し、欧州の土に還ります。

貸出画像⑮



藤田嗣治 《二人の祈り》 1952年
油彩・カンヴァス 46.2×38.2cm 名古屋美術館
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5975

戦後初めて宗教画に本格的に取り組んだ本作は、画面中央で藤田夫妻が聖母子に祈りをささげている。藤田が自室を飾るために制作されたもので、この7年後の1959年に二人はキリスト教に改宗した。君代夫人が最期まで手元に残した作品である。

貸出画像⑯



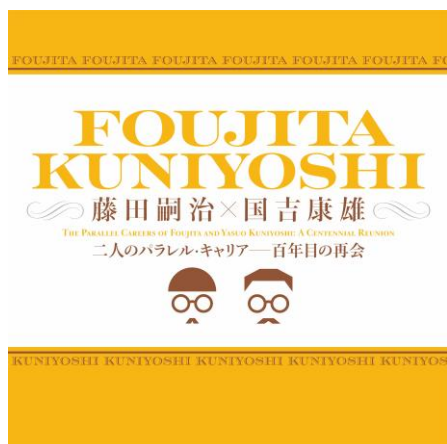
国吉康雄 《ミスターエース》 1952年
油彩・カンヴァス 116.9×66.1cm 福武コレクション

戦後描かれた色鮮やかな作品は、その色彩の裏にどこか不穏な空気を感じさせる。緑の仮面の下の顔は死人のように青白く、その笑みは見る者を不安にさせる。晩年に描かれた男性のピエロ像は、動乱する世界の中での画家自身を象徴しているようだ。

◆展覧会ロゴマーク◆

展覧会ロゴマークが以下に決定いたしました。
広報用画像としても貸し出しますので、ぜひご活用ください。

貸出画像⑰-1



貸出画像⑰-2



— 関連イベント —

●【募集終了】藤田嗣治と阪神間モダニズム ―藤田嗣治と吉原治良 出会いの地を訪ねて―
1929年に一時帰国した藤田と吉原治良が甲子園ホテルで出会ったエピソードや建築に関するお話を伺うツアーです。

講師：三宅正弘（武庫川女子大学生生活環境学部教授）

日時：6月19日（木）10:15-12:00

会場：甲子園会館（旧・甲子園ホテル）

定員：30名（先着順）

※HPで事前申込（募集開始は5月20日（火）10:00から）

参加費：2,600円（本展観覧券、甲子園ホテルオリジナルグッズ付）

●【募集終了・聴講整理券配布あり】監修者による講演会「藤田と国吉 パラレルなキャリアへ」

出演：林洋子（本展監修者／兵庫県立美術館館長）

日時：6月22日（日）14:00-15:30（開場13:30-）

会場：KOBELCOミュージアムホール

定員：150名

※HPで事前申込（募集開始は5月20日（火）10:00から）、要本展観覧券、友の会優先座席あり

なお、会期中に兵庫県立美術館で展覧会カタログをご購入いただいた方には、聴講整理券を配布します。
（この場合も本展観覧券が必要です）

●こどものイベント「藤田と国吉 ふたりのちがい、ふたりのおなじ」

日時：6月28日（土）10:30-12:00

※HPで事前申込（募集開始は5月31日（土）10:00から）

●学芸員による解説会

日時：6月29日（日）、7月12日（土）、8月9日（土）

いずれも15:00-15:45（開場14:30）

会場：レクチャールーム

定員：80名 ※先着順

●記念シンポジウム「20世紀前半の二人の日系画家をめぐる」

日時：7月6日（日）

会場：KOBELCOミュージアムホール

登壇：シープー・ワン（王土圃、ShiPuWang、カリフォルニア大学マーセド校教授）

森本陽香（名古屋市美術館学芸員）

伊藤駿（岡山大学国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座助教）

渡邊郁夫（修復家／修復研究所21所長）

土師広（修復家／土師絵画工房代表）

三浦篤（大原美術館館長／東京大学名誉教授）

林洋子（本展監修者／兵庫県立美術館館長）

※HPで事前申込、要本展観覧券

●ゆっくり解説会

※手話通訳・要約筆記付

日時：7月13日（日）13:30-14:25

会場：レクチャールーム

定員：60名 ※先着順

●1949年藤田嗣治個展 再現プロジェクトを語る

1949年11月にニューヨークのマシアス・コモール画廊で開催された藤田個展の図面を読み解くトークです。

講師：笹川治子（アーティスト）

聞き手：林洋子（本展監修者／兵庫県立美術館館長）

日時：7月21日（月・祝）14:00-15:30

会場：レクチャールーム

定員：50名

※HPで事前申込、先着順、要本展観覧券

●講演会「国吉康雄の生涯と画業」

国吉出身の岡山県で、長く研究に取り組まれてきた専門家のお話を聞き、より深く知る機会です。

講師：廣瀬就久（岡山県立美術館学芸員）

聞き手：橋本こずえ（兵庫県立美術館学芸員）

日時：8月2日（土）14:00-15:00（開場13:30）

会場：レクチャールーム

定員：80名

※先着順、無料、要本展観覧券

●HART TALK 館長といっしょ！ Vol.18 「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト開催記念

出演：小沢剛（アーティスト）

日時：8月11日（月・祝）14:00-15:30（開場13:30）

会場：KOBELCOミュージアムホール

定員：150名

※先着順、要本展観覧券、友の会優先座席あり

※詳細および追加イベントの予定は決定次第お知らせします。

関連概要

展覧会名：藤田嗣治×国吉康雄：二人の平行・キャリア一百年目の再会

会 期：2025年6月14日（土）～8月17日（日）【56日間】

開館時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

休 館 日：月曜日（7月21日、8月11日は開館し、7月22日、8月12日が休館）

会 場：兵庫県立美術館

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1【HAT神戸内】

主 催：兵庫県立美術館、毎日新聞社、MBSテレビ、神戸新聞社、

「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト実行委員会、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

協 賛：公益財団法人伊藤文化財団、DNP大日本印刷、大和ハウス工業、公益財団法人日本教育公務員
弘済会 兵庫支部、一般財団法人みなと銀行文化振興財団

特別協力：公益財団法人 福武財団

企画協力：株式会社キュレーターズ

協 力：岡山県立美術館、岡山大学学術研究院教育学域《国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座》

後 援：NHK神戸放送局、ラジオ関西

助 成：一般社団法人安藤忠雄文化財団、公益財団法人カメイ社会教育振興財団、
公益財団法人戸部眞紀財団

観 覧 料：

	当日	団体	前売
一般	2,000円	1,600円	1,800円
大学生	1,200円	1,000円	1,000円
高校生以下	無料	—	—
70歳以上	1,000円	800円	—
障害者手帳等をお持ちの方（一般）	500円	400円	—
障害者手帳等をお持ちの方（大学生）	300円	250円	—

チケット販売場所：公式オンラインチケット、アソビュー！、ローソンチケット（Lコード：52603）、
セブンチケット（セブンコード：109-470）、チケットぴあ（Pコード：687-187）、
イープラス、CNプレイガイド、楽天チケット、兵庫県立美術館ミュージアムショップほか

※前売券販売期間：4月11日（金）10:00から**6月13日（金）23:59まで**

※一般以外の料金でご利用される方は証明書を観覧当日ご提示ください

※障害者手帳等をお持ちの方1名につき、介助者1名無料

※コレクション展は別途観覧料が必要です

（本展とあわせて観覧される場合は割引があります）

※団体は20名以上。団体鑑賞をご希望の場合は1か月前までにご連絡ください

お得なペア割チケット「藤田×国吉 平行チケット」 3,200円（税込）

※2枚一組。1名で2枚利用可。

販売期間：4月11日（金）10:00～**6月13日（金）23:59**

販売場所：公式オンラインチケット、アソビュー！、ローソンチケット、セブンチケット、イープラス

《 報道関係者お問い合わせ先 》

「藤田嗣治×国吉康雄」PR事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場）090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：fk2025@tm-office.co.jp

▼広報用画像について

以下の【1】～【17】を広報用画像として貸出いたします。画像はリリースをご確認ください。
なお、**藤田嗣治作品は著作権存続作品です。次ページの注意事項を必ずご確認ください**申請をお願いいたします。

申込フォーム：<https://forms.gle/9uGZWK7SpHwfSnPL6>



◆広報用画像キャプション一覧

No	キャプション	クレジット（紙媒体）
		クレジット（WEB媒体）
1	中山岩太 《ポートレイト（藤田嗣治）》 1926-27年 中山岩太の会蔵	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
2	Max Yavno 《「逆さのテーブルとマスク」を制作中の国吉康雄》1940年頃 福武コレクション	
3	国吉康雄 《夢》 1922年 石橋財団アーティゾン美術館	
4	藤田嗣治 《タピスリーの裸婦》 1923年 京都国立近代美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0351
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0359
5	国吉康雄 《幸福の島》 1924年 東京都現代美術館	
6	藤田嗣治 《舞踏会の前》 1925年 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0353
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0359
7	藤田嗣治 《自画像》1929年 東京国立近代美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
8	国吉康雄 《サーカスの女玉乗り》 1930年 個人蔵	
9	藤田嗣治 《猫のいる静物》 1939-40年 石橋財団アーティゾン美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0330
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0359
10	国吉康雄 《逆さのテーブルとマスク》 1940年 福武コレクション	
11	藤田嗣治 《ソロモン海域に於ける米兵の末路》 1943年 東京国立近代美術館 （アメリカ合衆国より無期限貸与）	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
12	国吉康雄 《誰かが私のポスターを破った》 1943年 個人蔵	
13	藤田嗣治 《美しいスペイン女》 1949年 豊田市美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
14	国吉康雄 《カーニヴァル》 1949年 個人蔵	
15	藤田嗣治 《二人の祈り》 1952年 名古屋市美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
16	国吉康雄 《ミスターエース》 1952年 福武コレクション	
17-1	展覧会ロゴ（顔入り） ※キャプション不要	
17-2	展覧会ロゴ（顔なし） ※キャプション不要	

【広報用画像貸出に関する注意事項】

＜広報用画像、取扱いに関するお願い＞

- ◆画像は本展をご紹介いただく場合のみ使用可能です。本展終了後は使用できません。
ただし、本展レビュー記事においては、この限りではありません。
- ◆画像をご使用いただく際は、＜展覧会名・会期・会場・指定のキャプション、クレジット＞を必ず表記ください。
- ◆必ず全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字載せは禁止となっております。
- ◆再放送、転載などの二次使用をされる場合は、PR事務局まで別途申請ください。
- ◆基本情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階でPR事務局までメールまたはFAXにてお送りください。
- ◆ご掲載・放送後、お手数ですが掲載紙（誌）または同録をPR事務局までお送りください。
- ◆本展覧会終了後、画像データの破棄をお願いします。

＜藤田嗣治作品の著作権の取り扱いについて＞

ご紹介にあたり、広報用画像貸出申請書に記載のある藤田嗣治の作品画像については著作権上、下記条件の遵守をお願いいたします。

■紙媒体

①告知・紹介記事の場合

- ・展覧会の紹介テキスト（会期会場などの展覧会概要と画像クレジットを除く）は400文字以内。
- ・広報用画像は2点まで使用可。掲載サイズが50平方cm以下であること。

②特集記事の場合

- ・著作権料が発生します。特集記事を掲載いただける場合は広報事務局までご相談ください。
- ・文字数の制限はありません。広報用画像の中からお選びいただき、原稿・ゲラ刷りの段階で広報事務局までお送りください。

■WEB媒体

- ①・広報用画像は1点のみ使用とし、必ずコピーガードを施してください。文字数の制限はありません。
・コピーガードができない場合は、72dpi以下、または400×400ピクセル以下の解像度で掲載ください。

②特集記事の場合

- ・特集用など2点以上の広報用画像の使用をご希望の場合は著作権料が発生します。広報事務局にご相談ください。

③展覧会終了後（8月18日）、画像の公開終了をお願いします。

※国吉康雄作品については、点数・サイズの制限はありません。

《 報道関係者お問い合わせ先 》

「藤田嗣治×国吉康雄」PR事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場）090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：fk2025@tm-office.co.jp

